

# 卯辰山山麓寺院群「心の道」めぐり!!

## 【行程】

小坂公民館(事前学習後)=====円長寺=====慈雲寺=====宇多須神社・菅原神社=====  
=====宝泉寺=====〈昼食・蕎麦処卯蕎麦〉=====蓮昌寺=====西養寺=====小坂公民館

### ◎重要伝統的建造物群保存地区(重伝建)選定

「東山ひがし」平成13年(2001)、「主計町」平成20年(2008)  
「卯辰山麓」平成23年(2011)、「寺町台」平成24年(2012)

### ◎三つの寺院群と茶屋街⇒平成28年1月(2016)選定

寺院群…卯辰山山麓寺院群、寺町台寺院群、小立野寺院群  
茶屋街…ひがし茶屋街、主計町茶屋街、にし茶屋街



### 摩利支天山 宝泉寺(高野山真言宗)

### ※前田利家の守本尊・秘仏摩利支天を祀る

- (1)天正11年(1583)、利家が金沢城入場の際、城内の越後屋敷の地に摩利支天堂を創建し、摩利支天尊を自らの守護神として信仰崇拝した。
- (2)「末森城の戦い」や関東の戦いでは摩利支天尊を兜の中に入れて出陣し加護を受けた。
- (3)慶長6年(1601)、2代藩主利長は、金沢城の鬼門(北東)にあたる向山(卯辰山)中腹に1万坪を寄進し摩利支天尊を移築して「摩利支天山」と命名した。そして、加賀百万石の「鬼門封じ」とし宝泉坊が別当を司ったのが「摩利支天山宝泉寺」の起こりである。
- (4)慶長11年(1606)、3代藩主利常が「名人越後」と呼ばれた富田重政に命じ「宝泉寺」を建立し、加賀百万石の城下を守護した。
- (5)日本三摩利支天…宝泉寺、徳大寺(東京上野)、禅居庵(京都建仁寺)
- (6)五本松…天狗が住むと伝わる。泉鏡花が「魔神の棲家(すみか)」と表現した。



### 普香山 蓮昌寺(日蓮宗)

- (1)天正10年(1582)日寿により越前府中で創建。慶長18年(1613)、寿福院から浅野川の関助馬場に寺地を拝領したが御用地のため卯辰油木山に建立した。
- (2)1658年の火災で焼失後、如来寺跡屋敷を拝領して現在地に移転した。
- (3)加越能三国の触頭を務めた。
- (4)3代藩主利常の生母、寿福院の祈願所
- (5)金沢四大仏の一つ釈迦如来立像を安置  
玄門寺…阿弥陀如来立像  
浄安寺・極楽寺…阿弥陀如来坐像
- (6)泉鏡花の「縷紅新草」の舞台
- (7)芭蕉の俳人「秋之坊」ゆかりの寺
- (8)利常正室の玉姫輿入れの際、将軍から派遣された多羅尾家の菩提寺である。
- (9)山門…金沢市指定有形文化財



### 清澄山 西養寺(天台宗)

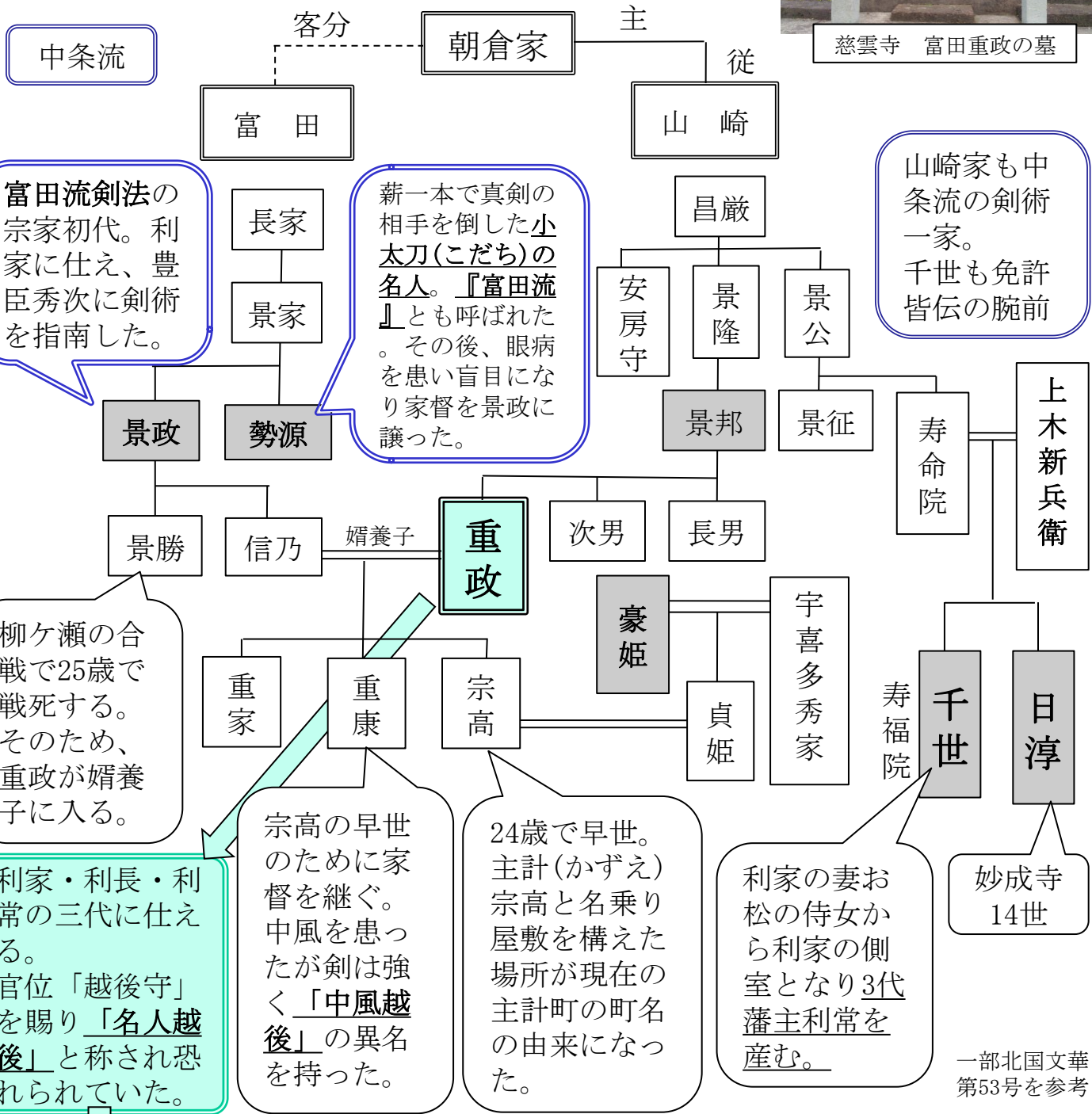
- (1)寛正年間(1460～65)に越前府中に開創された。
- (2)利家が、1575年越前府中城を築き、府中を拠点としていた西養寺住職・真運に帰依し前田家からの支援が続いた。
- (3)その後、利長に従って射水、富山、高岡と寺地を移し1602年金沢に移り、1612年に利常が現在の地に移転した。
- (4)加越能三国の触頭を務めた。
- (5)本堂・鐘楼…金沢市指定有形文化財で、鐘楼の軒丸瓦は梅鉢紋。
- (6)俳人・宮竹屋小春の墓碑がある
- (7)西養寺の井戸から「白山詣双六」(現代版)で白山比咩神社へ



前田家の剣術指南  
 剣豪『名人越後』富田重政 菩提寺・慈雲寺(東山)



慈雲寺 富田重政の墓



富田流剣法の宗家初代。利家に仕え、豊臣秀次に剣術を指南した。

薪一本で真剣の相手を倒した小太刀(こだち)の名人。『富田流』とも呼ばれた。その後、眼病を患い盲目になり家督を景政に譲った。

山崎家も中条流の剣術一家。千世も免許皆伝の腕前

柳ヶ瀬の合戦で25歳で戦死する。そのため、重政が婿養子に入る。

利家・利長・利常の三代に仕える。官位「越後守」を賜り「名人越後」と称され恐れられていた。

宗高の早世のために家督を継ぐ。中風を患ったが剣は強く「中風越後」の異名を持った。

24歳で早世。主計(かずえ)宗高と名乗り屋敷を構えた場所が現在の主計町の町名の由来になった。

利家の妻お松の侍女から利家の側室となり3代藩主利常を産む。

- 前田家の指南役・富田重政
- ①富田長家は、越前国一乗ヶ谷で中条流剣法を伝授し小太刀の奥伝を究めた。
  - ②義父・景政は、尾張国荒子で利家に仕え、天正5年(1577)七尾に雨宝山慈雲寺を創立し雨宝院日祐を住職とした。元和元年(1615)に現在の地(東山)へ移った。
  - ③重政は、越前府中で利家に100石で使え、天正12年(1584)景政の婿養子となる。
  - ④1584年の「末森城の戦い」、1590年の「小田原の役」、1600年の「大聖寺城攻め・浅井暁の戦い」、1614～5年の「大坂の陣」に二度従軍し武勇を発揮した。
  - ⑤加増に次ぐ加増で大名なみの13,670石、人持組の一員となり、金沢城新丸に屋敷が与えられ「越後屋敷」と言われた。寛永2年(1625)62歳で亡くなる。